

事例項目	01 障害の特性理解・実態把握	05 学校体制づくりのサポート
	06 ケース会議・研究協力特別支援教育に係る情報発信・	
概要	聴覚障害の理解とロジャー（デジタル補聴援助システム）の正しい使い方の相談	
事例提供校	高校： 中部地区 全日制	特支： 静岡聴覚特別支援学校

事例の内容	高校からのリクエスト <ul style="list-style-type: none"> ・当該生徒及び保護者から、「先生の話がよく聞き取れない。ペア・グループワーク時に級友の声がよく聞き取れない」との訴えがありました。また、「コロナの感染状況が落ち着いてきたので、授業中、先生は口元が見えるマスクを使用してほしい」との要望もありました。 ・学校としては、授業中は教員がロジャーを使用し、本人にも聞こえていると思っていました。どう対応したらよいでしょうか。
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用） <ul style="list-style-type: none"> ・高校訪問、当該生徒の授業観察 ・授業担当者等への講義（聴覚障害者の聞こえ方、人工内耳の仕組み、ロジャーの使い方指導） ・大学入学共通テスト出願・受験時、配慮願申請等の情報提供

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害の聞こえ方の体験や人工内耳の仕組みを理解することをおして、当該生徒への理解が深まり、より深く寄り添うことができようになりました。 ・配慮すべきことやその方法を直接見聞きすることができ、授業等ですぐ実践し、本人も教員も効果を実感でき、センター的機能の活用が役立ったと誰もが感じることができました。 ・口元が見えるマスク「顔が見えマスク」を紹介されました。さっそく学校で購入し当該生徒の授業担当教員は全員着用して授業をやるようにしました。 ・当該生徒は「私の主張」で自身の障害を告白し、全校生徒の前でスピーチした。この様子を生徒の母校であり、今回の支援の依頼先でもある静岡聴覚特別支援学校に zoom で配信し、交流を図ることができました。
	特別支援学校 担当者のコメント <ul style="list-style-type: none"> ・中学部から送り出した生徒の支援が引き継がれ、当該生徒の成長ぶりも見られたことなど、有意義な機会となった。本人も出身校の教員からサポートが受けられ安堵した様子でした。。 ・人工内耳による大学入学共通テスト（英リスニング）の受験可否について、今後も情報収集して、高校と共有していくこととしました。

まとめ <p>専門的な助言を受け、聞こえにくさが改善したという成果を生徒も教員も感じる事ができた好事例です。今回の支援を機会に、両校の関係が継続し、生徒に対する支援が継続していることもよいです。</p>
--

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。

事例項目	01 障害の特性理解・実態把握 02 個に関する指導
概要	授業の内容が分からなくなるとイライラしたりふてくされたりして、その気持ちの切り替えができず引きずってしまう生徒への対応
事例提供校	高校： 西部地区 全日制 特支： 浜名特別支援学校

事例の内容	高校からのリクエスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・板書を写すことが困難で、イライラしてしまい、余計に分からなくなる。教師が指摘するとふてくされてしまう。ふてくされると気持ちの切り替えができず、引きずってしまう。 ・教師の質問の内容や意図が伝わらず、ちぐはぐな会話になることがある。そのことを友達に指摘しても反応がない。 <p>このような生徒にどのように関わっていけばよいか。</p>
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）

	<ul style="list-style-type: none"> ・電話による相談 高校訪問 ・訪問時に高校での特別支援教育に関する体制や教員の意識について管理職、特別支援教育コーディネーターと情報共有
--	---

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、授業見学に来て、担任からの相談に乗ってほしいと思います。 ・発達障害なのかどうかを判断するための情報提供や行動の見立てについての助言が欲しいです。
	特別支援学校 担当者のコメント

	<p>生徒の行動の見立てとして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の理解や表出面でつまずき(苦手意識)があるかもしれません。 ・これまでの経験から、友達から指摘されていることに気付かないふりをして、嫌な気持ちになることを避けているのかもしれません。 ・教師からの関わりに対してふてくされるというリアクションは、教師に関わりを求めていると考えます。 ・板書を写すのが苦手だったり、質問に適切に応えられなかったりなど上手くできないことを自分で分かってはいるが、その感情を適切な言葉などで表に出せずにいるのかもしれません。 <p>関わり方として伝えたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での様子を情報提供してもらい、他の先生方と情報を共有するとよいと思います。 ・生徒が「ヘルプ」を出せるように「困っているところがないですか?」「分からなかったところはありませんか?」などさりげなく言葉をかける等、分からないこと、困っていることを言ってもいいんだということを生徒が感じられるようにするとよいと思います。
--	---

まとめ
特別支援教育を難しく考えることなく、すぐにできることを他の先生方と連携、協力して生徒に関わっていくことが大切だと考えます。

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。